

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立依知中学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成 【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成 【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成 【創造】	校長名 安藤 史
---------------	--	----------

学校教育目標	学校経営の方針
未来の創り手となる「学ぶ意欲」「豊かな心」「健やかな体」を身に付けた生徒育成	「創造・前進」 持続可能な社会を創るために、自ら主体的に関わり、考え、工夫を凝らし、常に挑戦し続け、前進し向上する活力ある学校づくりを行う。 ① 全職員による協働体制に基づき、チーム一体となった学校づくりを推進する。 ② 創造性を持ち、未来を切り拓き、たくましく生きる力を身につける生徒の育成を図る。 ③ 生徒一人一人を大切にし、多様性を尊重し、誰もが笑顔で楽しめる仲間づくり、環境づくりを心がける。 ④ 子ども、学校、家庭、地域が互いに相互受発信に努め、連携協力しあい、信頼関係を構築し、四者一体となった学校づくりを推進する。 ⑤ 定期的な学校評価による組織的・継続的な教育活動の改善を推進し、常に向上し、発展できる学校をめざす。

今年度の重点目標
1. 学習指導の充実 (1) 生徒が学ぶ意義をとらえ、基礎基本的な内容を定着し、自ら深く理解しようとする資質や能力を身に付ける。 (2) 生徒にどのような力を身に付けるのかを理解させ、見方、考え方を働かせた授業の展開の工夫を行う。 (3) 生徒の主体性を重んじた授業の展開を組み立て、教えあい、学びあいによる授業の展開を推進する。 2. 特別活動の充実 (1) 集団活動を通して、望ましい人間関係を構築し、思いやりや豊かな感性を育む。 (2) 生徒の自主的、自発的活動を促進し、自己肯定感を高めさせる。生徒自ら主体的に活動できる場や環境を設定し、生徒が創り上げる学校を目指すことで、夢や可能性に挑戦し続ける力を育成する。 3. 道徳教育の充実 (1) 特別な教科「道徳」の時間の充実を図るとともに、学校教育全体を通して心豊かな人間性の涵養を図る。 (2) 人権・福祉・国際教育を充実し、自他ともに愛し、大切にする生徒の育成を図る。 (3) 一人一人の違いを認め、生徒が多様な考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力を育み、誰もが笑顔で楽しく生活できる学校をめざす。 4. 生徒指導・支援教育の充実 (1) 一人一人のニーズに応じた適切な支援教育推進と、相談活動の充実。 (2) 特別支援学級、国際教室との連携を図り、インクルーシブ教育を推進する。 5. キャリア教育の充実 (1) 自分の人生を創造し、夢を語り未来を切り拓く力を身に付ける生徒の育成。 (2) 人生や社会を生きることのできる開かれた教育課程の編成。 6. 保護者・地域との連携の充実 (1) コミュニティスクールを基盤とした学校づくりを推進し、地域に応援され、愛される学校づくりを推進する。 (2) 学校からの情報発信を充実させるとともに、各地域団体との連携を図り、開かれた学校づくりを行う。 (3) 小学校(依知小・依知南小)との連携を図り9年間を見通した教育課程の編成を図る。 7. 保健安全指導の充実 (1) 健やかな心、健康でたくましい体の育成を図り、正しい自己判断能力を備えさせる。 (2) 自助、共助、公助を意識し、適切な判断ができる生徒の育成を図る。 (3) 自然や環境を大切にするとともに、食に関する関心を持たせ、生きていくうえでの大切なことを身に付けさせる。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校教育目標に向かって活気ある学校づくりができています	1・2・3	教育活動全般	コロナ対策で制限の中でも生徒が充実感を持つことができるよう計画・指導していることを評価していただいた。保護者の方に理解をしていただくための広報活動をさらに工夫したい。	「学校」という教育の場としての自信を持って教育課程を編成し、学校HPや学校だより等を通じて保護者にも伝わるようにしていく。また、全職員が一丸となって、活気ある学校づくりができるようにするため、職場内の学び合いを大切にしていく。
生徒が学習に意欲的に取り組んでいる	1	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業改善・見合う授業 ・校内研究・教科部会 ・数学の週末課題 ・定期テスト前の学習会の実施 ・学習がんばろう月間や放課後学習会の実施 ・夏休みのサマースクール ・学習コーナーの設置 	学校として、日々の授業改善を継続し、授業以外の時間でも「学習会」等で生徒の学習を支援し、生徒の学ぶ意欲を引き出せるよう努力していることで、成果が上がっている生徒もいる。生徒たちの、授業への取組はおおむね良いと思われる。学習内容を定着させるための自主的な取組を進めていきたい。	今年度の取組を継続するとともに、「指導と評価の一体化」の研修を年間計画に複数回入れ、特に、「主体的に学習に取り組む」ことができる生徒を育てられるよう、職員の研修を積んでいく。
生徒が「STEP UP!! 家庭学習」の目標時間以上、家庭学習をしている	1	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業改善・見合う授業 ・STEP UP!! 家庭学習 	家庭学習の目標とする時間(1年生:80分間、2年生:100分間、3年生:120分間)を達成することができなかった。職員が取組を進める意識をもっていきたい。	単に宿題を出す、○時間以上勉強しなさい、というだけでなく、上記のように「主体的に学習に取り組む」ことができる生徒を育てられるよう、職員の研修を積んでいく。
進路学習は将来の生き方について考える機会となっている	3	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生職業講話 ・2年生職場体験 ・3年生上級学校の先生の講話 ・3年生上級学校訪問の実施 ・各学年のキャリア学習 ・保護者への進路説明会の実施 	生徒たちはさまざまな学習と体験を通じて、生き方について考える機会を持つことができている。3年間を通じていくことで、評価も上がっていくと思われる。	各学年のキャリア学習や講話・体験に向けての指導計画と反省を次の学年に引継ぎ、より良いキャリア教育ができるようにしていく。また、来年度はESDの視点も含めて、学習を進めていく計画を立てている。ESDの視点からも将来の生き方を考える機会を広げていきたい。

生徒が「学級に居場所がある」と感じている	2	<ul style="list-style-type: none"> ・依知中スタンダード「学級経営」 ・朝の個々の健康観察 ・心の相談アンケート・教育相談 ・生活ノート(日記)の活用 ・週1回のコーディネーター会議の実施と会議内容の回覧 ・関係機関と連携したケース会議 ・いいところ見つけの活用 ・各学校行事・MVP表彰 	各学級担任が、昨年度までの校内研究で形にした依知中スタンダードを実践していくことや、朝の個々の健康観察・生活ノート・教育相談などで生徒一人ひとりに向き合ってきた成果が見られた。一方で、出席していても「学級に居場所がない」と感じている生徒が一人でもいたらそのままにはできないということを肝に銘じて、チームで対応を進めたい。	今年度の取組を継続するとともに、不登校の対応や学級経営についての職員研修をしていく。
生徒が思いやりのある言動ができるように意識した	2	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会本部による「依知桜の木」の取組 ・依知中学校区インクルーシブ教育推進スローガン ・学校保健委員会や学級活動での保健指導 	昨年度までの3年間、依知中学校区インクルーシブ教育推進スローガンとして「笑顔の輪を広げよう～みんな仲良く差別のない地域に～」を掲げ続けてきたこと、生徒会本部による「依知桜の木」の取組で生徒同士の感謝の気持ちを伝えあう場面をつくってきた成果が見られた。	今年度の取組を継続するとともに、新たに各学年で「インクルーシブ道徳」(1年:依知中学校のインクルーシブ, 2年:特別な支援が必要な生徒とのかかわり, 3年:多文化共生・国際理解)を計画した。依知中学校区インクルーシブ教育推進スローガンを風化させずに引き継いでいく。
一人一人の個性の違いを認め、共に学びあっている	2	<ul style="list-style-type: none"> ・依知中スタンダード「学級経営」 ・授業内での学び合い活動の推進 ・ゲストティーチャーによる道徳授業 ・依知中学校区インクルーシブ教育推進スローガン ・授業中の学び合いの推進 ・各学校行事 	上記同様、昨年度までの3年間、依知中学校区インクルーシブ教育推進スローガンとして「笑顔の輪を広げよう～みんな仲良く差別のない地域に～」を掲げ続けてきたこと、ゲストティーチャー道徳で、障がいを持つ方・性的マイノリティの方の話を聴くこと、各教科の授業中に生徒同士の対話的な活動を多く取り入れることで、個性の違いを認め、共に学びあう機会を多く持っている成果が見られた。	上記同様、今年度の取組を継続し、ゲストティーチャー道徳で生徒が今までの生活の中で触れ合うことの少なかった人々から話を聴く機会を設けることや授業中の学び合いをより効果的に進めることを意識していきたい。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校運営協議会委員が、学校で行っている3年生の面接練習に面接官として参加したり、学校運営協議会で地域への要望や生徒会活動の取組等について生徒会本部役員と意見交換するなかで、生徒の様子や活動、取組について知っていただく良い機会となった。また、地域の公民館まつりや運動会に生徒が参加することができたり、厚木市地域清掃は、学校側も部活動を停止して参加を呼びかけたりしたこともあり他学区に比べ参加率の高さを地域の特色のひとつとして挙げていただいた。さらに、学校運営協議会に生徒会本部役員が参加することも他地区にはない取組として評価をいただいた。また、新たな取組として「世代間交流」として、依知中学校に地域の方を招き、生徒たちとともに、グラウンドゴルフ大会を企画した(3月中旬に実施)。本地区が地域学校協働推進活動を地域学校協働推進委員が学校側と地域を結ぶパイプ役となって活動したことも評価でき、今後も「地域とともにある学校」「学校を核にした地域」づくりを進めていきたい。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

今年度、本校では「SDGsカリキュラムの創造」を校内研究のテーマに据え、今まで行っていた教育活動をESDという視点で見直すこととした。その一つとして昨年まで3年間取り組んできた人権教育を核とした地域一体型のインクルーシブ推進教育を継続し、ゲストティーチャー道徳で障がいのある方やLGBTにつながる話を聞く機会を設けた。その成果として「思いやりのある言動ができるように意識した」という設問に対し、生徒で94%、保護者で89%が肯定的な評価をしている。しかし、目に見えにくいところ、声を出しづらい生徒への対応をさらに強化していく必要性を感じている。

また、次年度に向けては学習指導において主体的に学ばせることを重点として取り組んでいるが、毎年教職員が入れ替わっていくため、本校で作成している「依知中スタンダード」を徹底すること、研修を繰り返し継続して行うことを意識していきたい。地域学校協働活動についてもさらに発展させられるよう、学校運営協議会と連携して活動を進めたい。